

知ると得する 楽しみ増える

かごしま
あ い も
こ い も

学習のポイント



鹿児島県の地理的特徴

□鹿児島県の位置

鹿児島県は、本土は九州の南端に位置し、さらに南に向かって多くの離島が連なっています。東経128度23分から131度12分の間、北緯27度1分から32度18分の間位置し、温帯～亜熱帯の気候帯に属しています。

約160万人の人が暮らし、面積は9,188kmあります。

市町村の数は43市町村（19市20町4村）です。 ※2021年3月末現在

□海に育まれた県域

鹿児島県の北の端・長島町から南の端・与論町までの距離はおよそ約600km。また、それらの海岸線をすべて足すと2,643kmもあります。港の数も114港で、これは全国第1位の多さです。

□たくさんの離島がある鹿児島県

鹿児島県内にある人が住んでいる離島(有人離島)は28島あります。面積の広い島としては、奄美大島や屋久島、種子島などがあります。こうした離島の総面積は2,476km²で日本一です。またこれは鹿児島県の面積の27%にあたります。

□アジアに近い鹿児島県

鹿児島から東京までの距離はおよそ960kmありますが、中国の上海までは約860km、韓国のソウルまでは約750kmで、東京よりもアジアの国々のほうが近いことがわかります。伝承されている文化の中にもアジアの国々と類似点があるものが多く、古くから交流があったことがうかがえます。

知ると得する

楽しみ増える

かごしま
あ い も
こ い も

学習のポイント

キーワード ▶▶▶

- 南北約600kmの県域
- 二つの世界自然遺産
- 三カ所の日本ジオパークと火山

県域全体が屋根のない博物館

鹿児島県の自然

本土最南端に位置し、県域が南北で約600kmもある鹿児島県。独自の自然景観や多様な動植物の生息は、世界的にも評価されています。そのひとつが、日本で最初に世界自然遺産に登録された屋久島です。屋久島では自然とひとの共生を学ぶ環境教育の施設やプログラムが充実しています。

また、令和3(2021)年に世界自然遺産に登録された奄美大島と徳之島は、多様な生物を観察できることで注目を集めています。

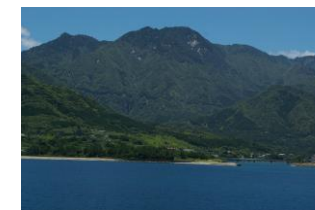
地形や地質から地球・環境・防災を学ぶ「ジオパーク」も県内三か所が日本ジオパークに加盟し、「火山」をキーワードにダイナミックな自然を体感できる環境が整っています。さらに、自然公園としては、恐竜の時代の化石が発見された甕島が国定公園に指定されています。鹿児島県はまさに、県域が屋根のない博物館のようです。



世界にほこる鹿児島県の自然

日本で最初に世界自然遺産に登録された島 屋久島

屋久島は大隅半島の南約 60 kmの海上に浮かぶ、周囲約130 kmほどの島です。九州で一番高い山・宮之浦岳 (1,936m) をはじめ、1,000m を越える山が島の中央部に連なり、亜熱帯性から亜寒帯性までの幅広い植生が見られ、洋上アルプスとも呼ばれています。平成5(1993)年に、日本初の世界自然遺産に登録されました。屋久島を代表する 縄文杉への登山を始め、白谷雲水峡や屋久杉ランドといった行程に合わせた屋久島の自然を満喫できるコースやガイドも充実しています。また、屋久島の周囲に点在する 集落こと里を歩くコースもあります。



多様な生物が生息する世界自然遺産 奄美大島・徳之島

奄美群島は北の奄美大島から南の与論島までの島々からなります。このうち奄美大島、喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島などの美しい海岸や亜熱帯広葉樹林、隆起サンゴ礁地形が奄美群島国立公園に指定され、海中公園地区も同時に指定されています。

その中の奄美大島と徳之島は、希少種を含む多様な生物が生息・生育していることが評価され、沖縄島北部、西表島とともに、令和3(2021)年に世界自然遺産に登録されました。

奄美大島は東洋のガラパゴスとも呼ばれる貴重な固有種が生息する島です。徳之島も同様に、海岸部では美しい隆起サンゴ礁を楽しむことができ、山間部では動植物の観察を楽しむことができます。

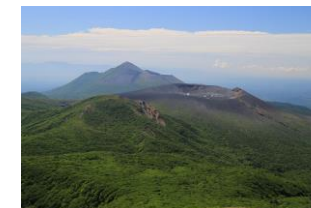




ダイナミックな火山の世界を体感！ジオパーク

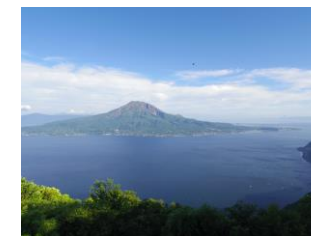
圧倒的な火山群 霧島ジオパーク

約20以上の火山からなる霧島山を中心とした鹿児島県と宮崎県両方にまたがる地域。現在でも新燃岳や硫黄山は活動していますが、そうした火山活動を起源とする美しい地形に触れることもできます。標高1,000mを越える山々では、1,300種の植物を観察することができ、火山活動の歴史と自然の多様性を楽しみながら学ぶことができます。



シラス台地を生み出した始良カルデラ 桜島・錦江湾ジオパーク

鹿児島湾奥の「始良カルデラ」は約2万9000年前に大噴火を起こした陥没地形で、その大噴火によって発生した火砕流は、南九州一帯に堆積し、「シラス台地」を形成しました。世界有数の活火山である桜島は今から約2万6000年前、始良カルデラの南端に生まれたと考えられています。大正3(1914)年、1月12日の大爆発によって大量の溶岩が流れ出し、それまで島として隔たっていた大隅半島との間の海峡が埋められ、陸続きになりました。シラス台地の特徴は、水捌けが良すぎることから、台地上での作物の収穫は制限されますが、鹿児島の農産品の代名詞でもある「さつまいも」の生産には適しています。こうした様子を県内各地で観察することもできます。



海中のカルデラ 三島村・鬼界カルデラジオパーク

三島村は、活火山である硫黄岳のある硫黄島を中心に、竹島と黒島という三つの島があります。竹島と硫黄島を含む、その南側の海域が約7300年前に大噴火した鬼界カルデラにあたり、その噴出物などを村の様々な場所で観察できます。



知ると得する

楽しみ増える

かごしま
あいも
こいも

学習のポイント

キーワード ▶▶▶

- 文化や文明の伝来地・鹿児島
- 世界文化遺産のストーリー
- 明治維新のふるさと鹿児島

いにしえから近代までずっと文化の伝来地 鹿児島県の歴史

鹿児島県の歴史は、温暖な気候や黒潮の潮流、さらに活発な火山活動といった様々な自然環境の影響を受けながら、独自の発展や経緯をたどってきました。

縄文時代の南九州は、豊かな生活と高度な文化を有していたことが近年の発掘調査から証明され、それらに触れる施設も充実しています。日本最古の史書である「古事記」「日本書記」の舞台とされる風景や神社も点在しています。

また本土最南端であり大陸に近いことから、中国僧の鑑真の来航や鉄砲・キリスト教の伝来地にもなりました。

そして、幕末・明治維新时期に、薩摩藩主・島津齊彬が始めた「集成館事業」は、世界的にも評価され世界文化遺産に登録されています。また同時期には維新の三傑と称される西郷隆盛・大久保利通を輩出し、藩としても活躍します。こうした偉人に関する史跡はもちろん、世界文化遺産を学ぶ施設も充実し、まさに「明治維新」を体感できる地域といえるでしょう。



神話・古代史も面白い

古事記・日本書記の世界を感じられる鹿児島

日本における最古の史書である「古事記」と「日本書記」。それらに描かれている日向神話の舞台とされる場所が、鹿児島県にも点在しています。神話にある「天孫降臨」の場面で登場する笠沙の御崎は、現在の南さつま市周辺にゆかりが伝わります。初代天皇の神武天皇の祖であるニニギノミコトなどの御陵とされる「可愛山陵」「高屋山上陵」「吾平山上陵」、神話に登場する神々を祭る神社などがあり、壮大な神話の世界に触れることができます。



豊かな縄文時代・黒潮に育まれた古代文化

霧島市にある上野原遺跡は、約9500年前の縄文時代の、日本最古で最大の定住集落跡が発見されました。指宿市の橋牟礼川遺跡は、開聞岳の火山灰の下から縄文土器が、上から弥生土器が出土したことから、縄文時代が弥生時代より古いことが証明された重要な遺跡です。



大隅半島の志布志湾岸地域には、畿内を中心とした前方後円墳を築くという文化が古墳時代に伝わっています。東串良町には鹿児島県内では最大級の前方後円墳である大塚古墳があり、全長は185mもあります。また、現在確認されている前方後円墳として日本最南端のものが、肝付町の塚崎古墳群にあり、太平洋を横断する暖流の黒潮が文化の伝播に影響したといわれています。



戦国時代の南九州

ザビエルによるキリスト教伝来と鉄砲伝来

戦国時代の鹿児島は、世界ともつながる時代でもありました。まずは1543年、ポルトガル人の乗った明国船が種子島に漂着し、鉄砲が伝来。その後、鉄砲は日本全国の戦争や技術に大きな影響を与えました。1549年には、フランシスコ・ザビエルがキリスト教を伝えるために日本を目指し、最初の上陸と布教をした場所が鹿児島でした。これらに由来する史跡や資料館も種子島と鹿児島市にあります。

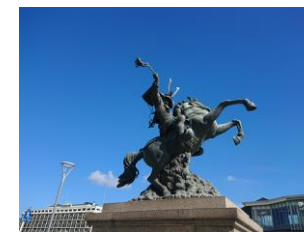


戦国島津の世界・中世の山城

群雄割拠の戦国時代において、九州の覇者として全国にも名を轟かせた島津氏。日本の南端の地域でありながらも戦国期の島津氏は、様々な出来事と関係があります。

特に17代当主の島津義弘は、関ヶ原の戦いにおいて「敵中突破」と呼ばれる勇敢に退路を求めたことでも有名です。その息子である家久は、徳川政権下で、薩摩藩の中心となる鹿児島城こと鶴丸城を築城しました。現在、城の大手門にあたる御楼門も復元され、全国百名城の風格を静かに伝えてくれます。

また、鹿児島県内各地には、戦国期の山城跡も公園として整備され、見学しやすい環境にあります。





幕末明治維新时期の偉人たちに学ぶ

独特の教育制度・郷中教育

薩摩藩士の子弟の教育は、「郷中（ごうちゅう）」とよばれる一定の区域ごとに行われ、特定の先生はおらず、先輩が後輩を指導するなかで、お互いがお互いの手本となることが求められました。こうした独特の教育制度によって人材が育成され、明治維新に活躍した西郷隆盛と大久保利道が輩出されます。彼らは同じ下加治屋町出身であり、このほかにも多くの人物が輩出されています。明治維新の原動力となった人々を育んだ背景を史跡や施設で学ぶことができます。

薩摩藩英国留学生

文久3（1863）年、薩摩藩は前年の生麦事件をきっかけに鹿児島城下の目の前の海・鹿児島湾でイギリス艦隊7隻と戦闘になりました。これを薩英戦争といいます。薩摩藩は集成館事業を通じ軍備の西洋化を行い、生麦事件発生後も戦闘の準備をしていましたが、砲撃戦の末鹿児島城下は焼け、台場なども破壊されました。薩摩藩は西欧諸国の実力を実感し、慶応元（1865）年には使節団を含む19名をイギリスへ派遣しました。留学生たちの中からはその後明治政府で活躍をした者が多く輩出されるなど、日本の近代化に大きく影響しました。大阪の経済界の基盤を形成した五代友厚や、神奈川県令として電信を日本で最初に設置した寺島宗則、東京国立博物館を設立した町田久成、サッポロビールの創始者でもある村橋久成などがします。彼らの足跡をたどれる史跡や施設も充実しています。





幕末明治維新期に活躍した人々

日本の近代化の先駆け・集成館事業(世界文化遺産)

島津家の第28代当主島津斉彬は、薩摩藩だけでなく、日本全体のことを考えて政治を行いました。西洋の事情にも詳しく、日本初の日本人による写真撮影の被写体になっています。島津斉彬が、日本を強く豊かな国にしようと考えて建設した近代的な工場群を集成館といいます。薩摩藩は当時日本で最も進んだ技術を持ち、明治維新に向けて大きな影響力を持つことになりました。

こうした集成館事業を伝える文化財は「明治日本の産業革命遺産」として、2015年7月に世界文化遺産に登録されました。



薩摩の武士が生きた町（日本遺産）

薩摩藩では武士の居住地区は麓と呼ばれ、それらが藩内に113あったとされています。藩主が居住する鹿児島城（鶴丸城）を内城というのに対して、それらは外城ともいい、たくさんの武士が薩摩藩内の各地に分散して住んでいました。

この麓のうち9つが、2019年5月、「薩摩の武士が生きた町～武家屋敷群「麓」を歩く～」として日本遺産に認定されています。全国的には知覧の武家屋敷群が有名ですが、広さが圧巻の出水の武家屋敷群や知覧など4つの麓が伝統的建造物群保存地区に指定されています。また、それらの地域では当時の武士の生活が理解できるように武家屋敷の保存や体験メニューも充実しています。



知ると得する

楽しみ増える

かごしま
あいもも
こいも

学習のポイント

キーワード ▶▶▶

- 太平洋戦争時に20の基地がおかれた
- 特攻隊員が飛び立った基地
- 平和の大切さを訴える施設

本土決戦の最前線だった鹿児島

鹿児島県の平和教育

太平洋戦争末期、鹿児島には陸海軍合わせて20の基地があり、沖縄作戦や本土決戦に備えられていました。また多くの基地から特攻隊員などが飛び立ち、多くの尊い命が失われました。各地には当時の様子を知ることのできる施設があり、平和の大切さを学ぶことができます。こうした戦争遺産を伝えるための語り部や案内人も各地で活動しています。





鹿児島で平和について考える

太平洋戦争末期、鹿児島には陸海軍合わせて20の基地があり、沖縄作戦や本土決戦に備えられていました。また多くの基地から特攻隊などが飛び立ち、多くの尊い命が奪われました。

知覧基地(陸軍)

太平洋戦争中に大刀洗陸軍飛行学校知覧教育隊として設立。戦争末期の沖縄戦において本土最南端の特攻基地となり、多くの特攻隊員が出撃し戦死しました。基地跡周辺には当時使用された給水塔、防火水槽、飛行機を格納していた掩体壕、隊員が出撃までの日々を過ごした三角兵舎跡などが残されています。



出水基地(海軍)

出水基地は、昭和12年(1937年)に飛行場の建設が始まり、昭和18年(1943年)4月に出水海軍航空隊が開隊、教育機関として操縦訓練などが行われていました。昭和20(1945)年2月に出水海軍航空隊は解隊。4月以降、出水基地は特攻基地として銀河隊等が沖縄の米機動部隊に対して攻撃を行い、約200名の特攻隊員が出撃しました。周辺には出水基地に関する遺構も多く残っています。





鹿児島で平和について考える

鹿屋基地（海軍）

鹿屋海軍航空隊は昭和11年に発足し、現在は海上自衛隊鹿屋航空基地として利用されています。ここからは908名の特攻隊員が出撃し、戦死しました。戦時中、笠野原や串良にも航空基地があり、串良基地からも363名の特攻隊員が出撃し戦死しています。鹿屋市内には飛行機を空襲から守るための掩体壕や受信施設としての地下壕などが当時のまま残り、他にも昭和20年の11月に計画されていた本土上陸作戦に備えた施設などもあります。



桜島（海軍）

昭和20年1月、アメリカ軍の日本本土上陸作戦、オリンピック作戦に備え、南九州各地では、基地が設けられ備えが進んでいました。桜島の袴腰には、海軍特攻戦隊の一つ「第五特攻戦隊」の司令部がおかれ、魚雷保管室や動力室があったとされます。この近くには 通信施設もあり、佐世保鎮守府や南九州一帯に配備された各突撃隊との連絡を行っていました。



万世基地（陸軍）

戦況の悪化に伴い、知覧飛行場の補助飛行場として終戦直前の昭和20年（1945年）3月から7月までの約4ヶ月間だけ使用され、この間に201名の特攻隊員が出撃し、命を落としました。周辺には基地入口の営門跡や貯水タンクなどが保存されています。



知ると得する

楽しみ増える

かごしま
あいもも
こいも

学習のポイント

キーワード ▶▶▶

- 農業生産額全国第2位
- 自然環境に適した農業を発展させた
- 海岸線も長く漁業も盛ん

日本の食糧基地 盛んな農業と漁業 鹿児島県の産業

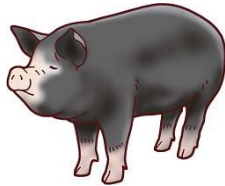
鹿児島県は北海道に次いで2位の農業産出額を誇る農業県です。「黒牛」「黒豚」に代表される畜産やさつまいもや茶といった作物など多岐に渡り、食料生産地でもあります。鹿児島を代表する野菜のひとつである桜島大根は、うまさに限らず、含まれる成分から健康面における影響も注目されています。また、漁業は養殖部門を中心として盛んに行われ、ブリやカンパチ、ウナギなどの養殖が県内各地で大規模に展開されています。他にも日本本土最南端という地理条件を活かした果樹栽培で、マンゴーやタンカンなども各地で栽培されています。こうした農・水産業の現場を鹿児島県各地で、学び、体験することができます。



鹿児島県の産業

鹿児島の農業

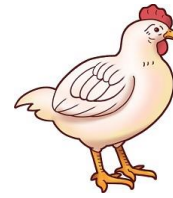
鹿児島県は全国屈指の農業県です。お茶を中心とした園芸作物、畜産がともに全国第2位で、鹿児島県農業生産額も全国第2位(平成30年度)です。



豚飼養頭数
126万9000頭
(全国第1位)



肉用牛(黒毛和種)
飼養頭数 33万8000頭
(全国第2位)



ブロイラー飼養羽数
2797万羽
(全国第2位)



サツマイモ収穫量
27万8000トン
(全国第1位)



茶(荒茶)
2万8000トン
(全国第2位)

鹿児島の漁業

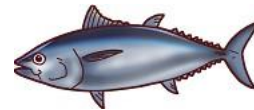
離島面積は全国一、海岸線の総延長は全国第3位という、海の恵みをたっぷり受けている鹿児島県。沿岸漁業のほか、遠洋漁業ではいちき串木野市のマグロ、枕崎市のカツオ漁が盛んで、かつお節の生産量は全国第一位です。また、ぶりやうなぎの養殖も第一位を誇ります。



カンパチ養殖生産量
2万6547トン
(全国第1位)



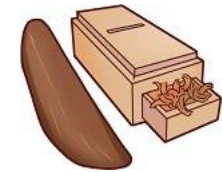
ブリ養殖生産量
2万4453トン
(全国第1位)



クロマグロ養殖生産量
2835トン
(全国第1位)



ウナギ養殖生産量
8199トン
(全国第1位)



カツオ節生産量
2万5012トン
(全国第1位)



日本で一番宇宙に近い県

鹿児島県の最先端

鹿児島県には日本の宇宙開発における最先端となるロケットの発射場が二ヶ所あります。ひとつが主に気象観測などを目的とした実用衛星が打ち上げられる種子島宇宙センター。もうひとつが学術研究などを主たる目的とした科学衛星が打ち上げられる内之浦宇宙観測所です。

従来のロケットに比べて低コストで打ち上げ可能な「イプシロン」や小惑星探索を目的とした「はやぶさ1」「はやぶさ2」も鹿児島の発射場から打ち上げられています。

見学も可能で、鹿児島県は、日本で一番宇宙に近い県といえるでしょう。

キーワード ▶▶▶

- ロケット発射場
- 内之浦宇宙観測所
- 種子島宇宙センター



鹿児島県にある宇宙基地2か所

内之浦宇宙空間観測所

内之浦は鹿児島県の東側・大隅半島の東海岸に接し、太平洋に向かって開けています。日本の宇宙開発・ロケット開発の父、糸川英夫が現地調査を行ったことがきっかけで選ばれ、日本最初の人工衛星である「おおすみ」が1970年に打ち上げられました。研究目的の天文観測衛星や惑星探査機が打ち上げられ、2003年の打ち上げ後、小惑星イトカワを探査し7年ぶりに地球に帰還して話題となった「はやぶさ」も、内之浦から打ち上げられたものです。



種子島宇宙センター

種子島宇宙センターは種子島の南の海岸線に接し、世界一美しいロケット発射場と言われるとともに日本最大のロケット発射場です。種子島からは技術試験衛星や地球観測衛星などの実用衛星が打ち上げられています。2014年12月に種子島から打ち上げられた「はやぶさ2」は、小惑星リュウグウから2020年12月に帰還し話題となりました。





離島人口、離島面積全国第一位

離島の魅力

鹿児島県の県土の約27%をしめる離島。世界自然遺産の島・屋久島やそれを目指す奄美大島と徳之島、宇宙基地のある種子島は全国にも知られる離島です。またそれ以外の島々のそれぞれの魅力があり、その島らしいテーマで楽しみ、学ぶことができます。本土域に近い甕島は、国定公園にも指定され、恐竜の時代の化石発掘も行われています。三島村の硫黄島や屋久島の横にある口之永良部島、十島村の諏訪之瀬島などは、活火山と人間との共生を肌で学ぶことができます。奄美諸島の喜界島は、世界有数の隆起速度を誇る島で、地形から観察することができます。沖永良部島は地下の鍾乳洞探検のコースが全国でも話題であり、砂浜の美しい与論島は、沖縄県から行きやすい島でもあります。このように離島の自然や文化を学びたい、知りたいテーマで選択できるのが鹿児島県の離島です。

キーワード ▶▶▶

- 全国有数の離島県
- 島々の魅力・特徴もそれぞれ
- アクセスも充実



鹿児島県の離島あれこれ

鹿児島県の有人離島

鹿児島県は全国有数の離島県です。有人離島が27(令和3年3月現在)あり、離島に暮らしている人口は約16万人で、全国の離島人口(沖縄本島を除く)の約26%を占め全国第1位です。離島面積も2,474km²で全国の離島面積の32%にあたり全国第1位です。

※平成27年度国勢調査(確定人口):159,486人

※2018年離島統計年報:2,474.15 km²

豊かな自然や文化に彩られた離島

日本で初めて世界遺産に登録された島・屋久島、鉄砲が伝来し、そして宇宙基地のある種子島、仮面神が現れる独特な祭りが今も傳承される十島村・三島村の島々、貴重な固有種も多く生息する奄美大島、隆起速度が世界トップレベルの喜界島、鍾乳洞の美しい沖之永良部島、砂浜の美しい与論島など、多彩な魅力があります。

離島へのアクセス

鹿児島県の県庁所在地鹿児島市からの航路のほか、鹿児島空港からの航空路線も充実しています。九州新幹線の駅のある薩摩川内市やいちき串木野市からの航路がある甑島は、2020年に鹿児島県内で一番長い1,533mの甑大橋が架橋され、上・中・下の三島が車で移動できるようになりました。

